

HIV感染症の最先端医療・研究の拠点

NCGM エイズ治療・研究開発センター

エイズ治療・研究開発センター（ACC）は、国内外の HIV 感染症治療・研究機関との連携のもと、HIV 感染症に対する高度かつ最先端の医療提供とともに、新たな診断・治療法開発のための臨床研究・基礎研究を行っています。

ACCの理念

患者の人権と尊厳を重視した「患者中心」の医療を心がけ、高度かつ最先端の医療を実践します。

1. 多職種からなる医療チームで情報を共有し、安全かつきめ細やかな医療を目指します。
2. 安心・納得して医療を受けられるよう、病状や治療内容についての分かりやすい説明を心がけます。
3. 国内外の最先端医療を積極的に取り入れ、最高レベルの医療の提供を目指します。

設立の背景

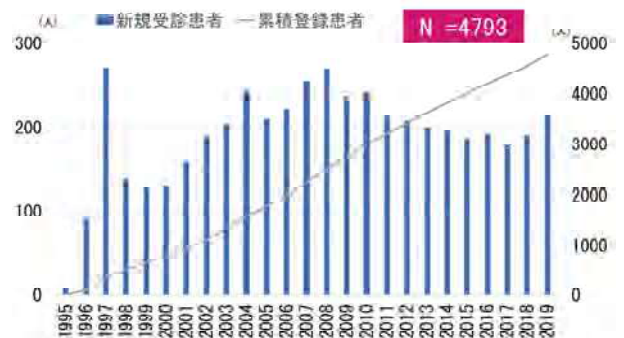
ACC は、薬害エイズ訴訟の和解をふまえ、被害者救済の一環として 1997 年 4 月 1 日、国立国際医療センター病院にて設立されました。

1982～1985 年、HIV が混入していた非加熱血液製剤を使用した血友病患者の約 4 割、2000 名が HIV に感染した「薬害エイズ事件」が発生。1989 年、東京 / 大阪 HIV 訴訟原告団と弁護団は、東京と大阪の地方裁判所に国と製薬企業 5 社に対し損害賠償責任を問い提訴しました。1996 年 3 月 29 日に和解が成立し、日本国内の HIV 感染症の医療福祉体制の整備拡充が進む契機となりました。

厚生労働省の庁舎前には、医薬品による悲惨な被害を発生させることのないように、決意を銘記した「誓いの碑」が設置されています。

このような経緯から ACC は、HIV 感染患者への最先端医療を提供や、新しい治療法の開発のための臨床研究、世界に通用する若手感染症専門医の育成に寄与する使命を持っています。

ACC 登録患者数の年次推移



誓いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV 感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する。

千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件
このような事件の発生を反省しこの碑を建立した。平成 11 年 8 月 厚生省



ACCの役割

HIV 感染症に対する高度かつ最先端医療の提供



全国から一日平均 50 名の患者が受診する専門外来では 3 名の医師が診療にあたっています。病棟には治療に専念できる 30 床と看護師 24 名を含む医療スタッフ体制があります。

臨床研究・基礎研究



治験、新たな診断・治療法開発のための臨床研究や疫学研究をはじめ、感染症全般の研究を幅広く行っています。研究成果は、論文発表や学会報告を通じて世界に発信しています。

医療情報の提供と、ブロック拠点病院・拠点病院との連携



適切な医療を受けていない患者の掘り起こし、適切な医療機関受診への誘導、ブロック拠点病院・拠点病院の HIV 診療技術の底上げに向けた活動に取り組んでいます。

専門家の育成のための研修の開催



HIV 感染者の診療・看護等の実務を担う医療従事者の育成と全国的ネットワークの構築を目的として、各種研修を開催しています。